

第8回 地域共生社会の在り方検討会議（2025/1/31）
於：東京虎ノ門グローバルスクエア コンファレンス4階

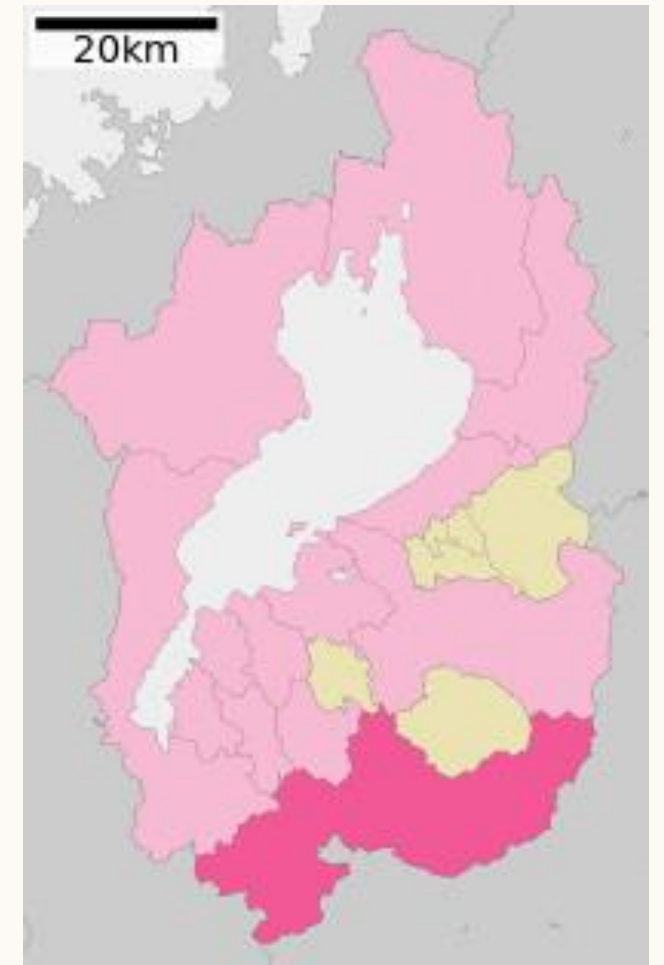
地域共生社会の在り方検討会議（第8回）	
令和7年1月31日	資料2-2

いつのまにやら 「地域づくり」

滋賀県 甲賀市役所 地域共生社会推進課

滋賀県甲賀市（こうかし）の紹介

場 所	甲賀市は滋賀県南端部に位置し、南東端は三重県、南西端は京都府と隣接している
特 徴	信楽焼、甲賀流忍者、お茶などが有名
人 口	87,741人（令和6年12月末現在）
高齢化率	29.5%（令和6年12月末現在）
面 積	481km ²
人口密度	184人/km ² （令和2年10月国勢調査より）
重層事業	令和4年度から実施



甲賀市重層的支援体制整備事業

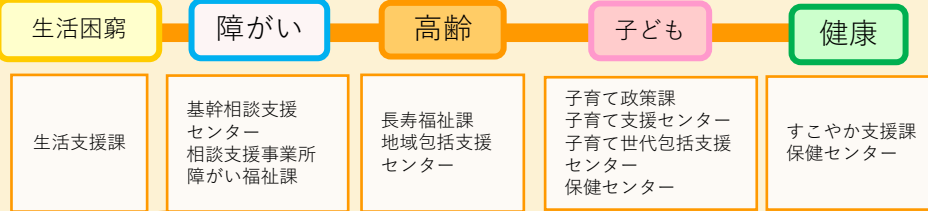
①～⑤を一体的に取り組む

連絡・相談・情報提供

- ・地域住民
- ・民生委員、児童委員
- ・支援関係機関
- ・各種会議からの情報

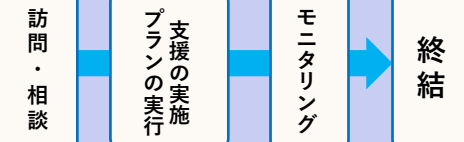
①包括的相談支援事業

世代や属性を超えた相談を丸ごと受け止める



③アウトリーチ等継続的支援

【甲賀市社協に委託】



複雑化・複合化した課題は多機関協働事業者へつなぐ

②多機関協働事業

【甲賀市社協に委託】

複雑化・複合化した事例や狭間の問題の解決に向けて横断的な協働のコーディネートを行い支援を調整する

支援会議
(同意なし/守秘義務)

連携が必要なケース、複合的な課題のケースの情報共有・状況把握の確認
関係機関の役割整理

重層的支援会議
本人同意あり

役割分担、プラン作成
モニタリング
プラン適性の協議
プラン終結時の評価
社会資源の充足状況

モニタリング
支援体制の
全体の

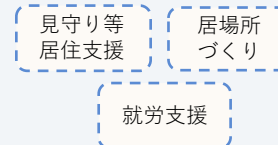
終結

「伴走支援」

④参加支援

【甲賀市社協に委託】

参加支援の場の創出



支援の実施
プランの実行

モニタ
リング

終結

⑤地域づくり

孤立を防ぎ、誰もが活躍できる場づくり・地域づくりに向けた支援

生活支援体制整備事業
地域介護予防活動支援事業
[長寿福祉課]

地域活動支援センター事業
[障がい福祉課]

地域子育て支援拠点事業
[子育て政策課]

生活困窮者のための
地域づくり事業
[生活支援課]

フロー作成時に
「地域づくり」
をどのように配
置すればよいか
を悩んだ。

今日のお話しする内容

- ・ いつの間にやら「地域づくり」とは
- ・ 重層事業を実践してみての気づき
- ・ プラットフォームのこと（土壌）
- ・ コーディネーターのこと（人）
- ・ いつのまにやら地域づくりの事例紹介 2つ
- ・ 事例から見えてきた共通点
- ・ 【土壌】弱さの情報公開ができる場（みんなでe-こうか）
- ・ 【人材育成】真の対人関係専門職育成（笑察カフェ）
- ・ 自分たちも地域の人たちも共に育つ

「いつの間にやら」という感覚

- ・ 計画的な実施や意図的な試みが、うまく通用しない世界
- ・ ふと注意を向けたら、既に「地域づくり」になっていたという感覚がヒントになる

5つの事業を
一体的に実施
することが大切

「身寄り問題」を
この予算で実施
しなくては

「ひきこもり支援」は
アウトリーチ支援で
社協に委託だ



実践において創意工夫が生まれやすい環境か

- ・ 交付金の一体的交付という仕組みはあるが、想像豊かに使いこなせず、新事業の交付金をもらうことが目的になってしまう
- ・ 複数ある包括的な地域づくりについて、ひっくるめて機能する体制を整備しなければと考えているうちに、壮大な思考となる

4分野で既に
「地域づくり」を
やってるんだ

堂々と分野横断ができる
仕組みになったね

あなた、予算編成の時しか
協働しないよね



「地域づくり」は考えれば考えるほど難しい⁷

- ・ 地域生活課題（身寄り問題・ひきこもりなど）に対して、庁内の協働さえおぼつかない状態
- ・ 地域生活課題を、自発的な地域住民の力をかりて解決するなんて、至難の業だ
- ・ 暮らしの困りごとを素通りして、ポンチ絵ばかりを修正してる



難しいことは抜きにして、動きをつける「人」⁸

- ・ 属人的なコーディネーターを、滋賀県甲賀市では尊敬と愛情を込めて変態（transformation）と呼んでいる
- ・ 地域づくりを推し進める人、共有地を変容させていく人材が必要。それはDXならぬ**CX**



実践して気がつく「地域づくり」のジレンマ

- ・ 地域住民の力をかりた「地域づくり」が、見映えのする「まちづくりイベント」となり「福祉」から離れていく
- ・ 団体が大きくなると、運営を続けるためにルールや資金が必要となり、柔軟さを欠いた協働しにくい専門チームとなる

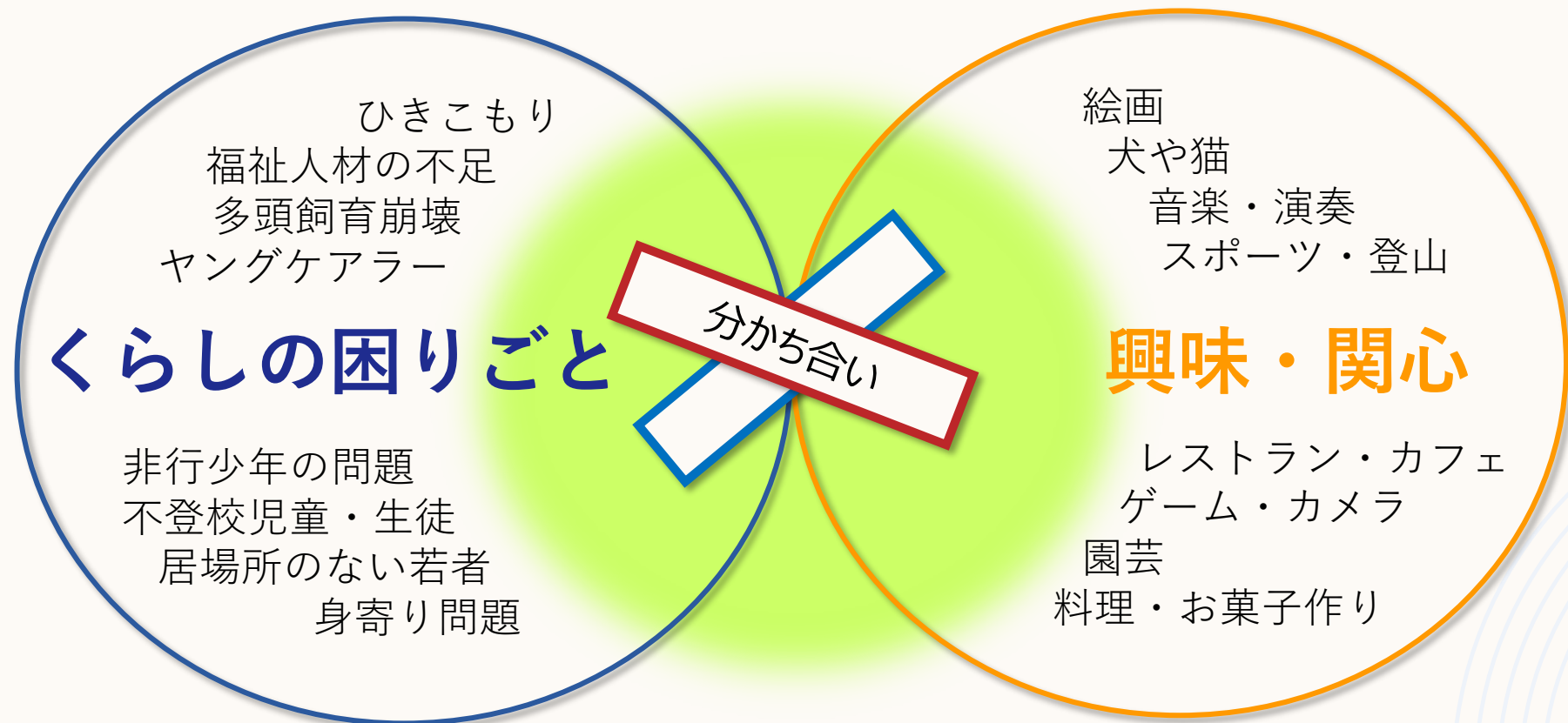
みんな各々、やりたい方向性があるからね

どうしても、見映えする取り組みをめざしがち

強者ばかりだったら、弱い者は参加しにくい

「分かち合い」を意識してみる

- ・暮らしの困りごとと、地域住民の興味・関心は勝手につながらない
- ・コーディネーターが使用する接着剤として「分かち合い」が必要



分かち合いで、何をシェアしようか

- ・ **プラス（強さ）** の分かち合いがなければ、地域づくりは始まらない。
でも、それだけでは活動が拡大し合理的になる（企業的）
- ・ そこに **マイナス（弱さ）** の分かち合いがあれば、活動規模は小さい
ままでも支え合いの機能が担保される（福祉的）

強
さ

利益
喜び
快適
楽しみ
成功
成長

分かち合い

弱
さ

損失
悲しみ
痛み
生きづらさ
失敗
停滞

いつのまにやら地域づくりの 事例紹介

- 「やってみたい」から始まっている
- 誰でも参加できる
- みんなで取り組んでいる
- 自由な発想である
- おもしろがっている

**事例集を参照ください。
(第四の縁事例集)**

100あるうちの18の縁を掲載しました。

- 紹介できなかった**82の縁**について
知る人ぞ知る小さなつながりが地域にはたくさんあって、
それで地域が成り立っている
- 水戸黄門的なグループ
第四の縁は、**うっかり八兵衛**がいるからこそうまくいく
- 小さな縁の積み上げが、次の縁をつくる



心地よい居場所の共通点

15

- 誰が来ても受け入れる
- 対等な立場で対話がある
- やっている者も楽しんでいる
- どんな発想もおもしろがる
- 「弱さ」や「苦手」を分かち合っている
- 仕事とボランティアの越境を楽しんでいる
- 互いを認め合い、感謝を忘れていない



ことあるごとに、対話形式
自分の言葉で話すことを大切に

土壌づくり：みんなで



-こうか



楽しみながら、ゆるーくつながりながら、いい甲賀を目指します

甲賀圏域で福祉・介護・保健・医療・教育・生活困窮者支援等関係者ネットワークの集い開催から始まった

目的と内容

- 1・仲間が寄り集まり、情報交換する場
- 2・認め合い励まし合える場
- 3・刺激し合い、新たな取り組みにいかせる場

みんなでe-こうかが大切にしているもの

- 『弱さの情報公開ネットワーク』

専門職も弱音を吐けるネットワーク

- 『スノーフレークリーダシップ（雪の結晶）』

お互いの力を引き出す力をつける

チャレンジを支える土壌づくり

気軽に相談できる関係 協働体制

→みんなで、あたたかい“甲賀”を創る



人材育成：真のプロフェッショナル育成 「笑察カフェで省察的実践家育成」

18

専門職とは、一般の人や異分野のプロフェッショナルにも
わかりやすい言葉で伝えられ、そして他者とも協働
(コラボレーション)できる人

それには・・・

自分自身が大切にしてきたもの（価値観、信念、暗黙知）を意識化し、振り返り、「ことば」にして、改めて肯定的に捉える学びあいが必要！

省察的ワークショップ

三輪建二式ラウンドテーブル



- ① 4人でグループになり、当日のテーマにそって、
一人が自分の専門性と照らし合わせながら語らう
(5～10分) **語り合い、聴き合うラウンドテーブル**
- ② 他のメンバーは、その話が終わってから事実確認や
質問を投げかけ語らい合う (5分)。
- ③ ラウンドする。
- ④ 感想を振り返る。



対話により
自分自身、相手の価値観、信念に気付く



自分自身が成長し続ける



- ①大人の学習は意識変容
- ②対話を大切にする
- ③記録に残す

省察的実践家 を育成していく

自分たちも地域の人たちも共に育つ

21



地域・団体
企業・学校

人材不足
課題はたくさん



- ・ 公益的である
- ・ 社協や市民センターとの協働
- ・ 地域の人との協働
- ・ 誰でも参加しやすい

出会い・協働

まちづくり
ひとづくり

成長の機会

感謝・認知

仕事と私生活
の両立

仕事への還元

居場所づくり

地域資源

職員

やりたいこと
楽しみたいこと
活かせるスキル



属人的メンバーがさらに身に付けたいもの

○側面的に支援する力

主体となり活動を牽引するのではなく、側面的に支える力

○対話する力

補助金でしか応援できないのでは厳しい
対話を重ねて、数値以外で評価しよう

豊かさの価値も
だんだん変わってくる
だろうね

○社会の側に働きかける力

「法律上、制度上ムリです」に納得しない



【めざす地域づくり】

- ・ 誰もが、何がしかの縁に属している状態
- ・ 一人ひとりの日々の「いいね！」を認め合い、許し合える
- ・ その私的な縁や緩やかなつながりを公的なものとして寛容に受けとめる地域社会

市民(特に若者世代)と職員が協働し、
いつのまにやら地域づくりコーディネーターとして
地域を育てるプロジェクトを検討中！

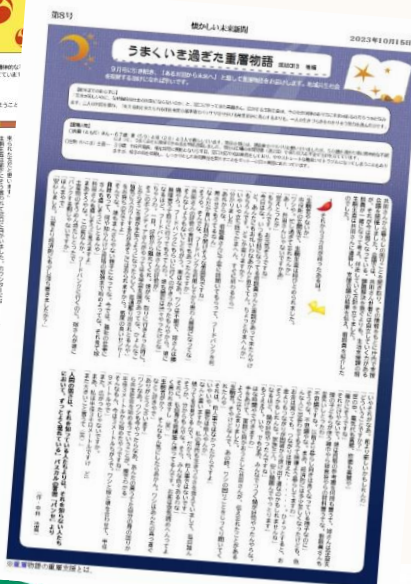
意識醸成には
物語の力を
かりましょう

議員さんも
愛読者

ご清聴ありがとうございました



懐かしい未来新聞 懐かし
い未来新聞 懐かしい未来新聞



地域共生を
毎月情報発信

Koka-City